

2024（令和6）年度

事業計画書

学校法人東邦学園

2024（令和6）年3月16日

目 次

- I はじめに
- II 法人（学園）の事業計画
- III 愛知東邦大学の事業計画
- IV 東邦高等学校の事業計画

I.はじめに

学園は、創立100年周年を迎えた昨年度に様々な行事やPR活動を展開し、過去1世紀の歩みを振り返ると共に、新たな100年への決意を新たにした。既に昨年度の事業計画書で「覚悟を持って進まなければならない。向かう先の環境は厳しい優勝劣敗・淘汰が待ち受けている」と記したが、現実には覚悟した以上に険しい。

学園財政を大きく左右する学生と生徒の在籍者数は、愛知東邦大学で定員割れが続き、総収容数を4年ぶりに下回った一方、東邦高等学校は増加の一途で学則定員を超した。高校の増加ぶりは施設の容量を超えてしまい、校舎建設という多額の支出が学園財政の面では押し下げた。大学の定員割れは、学園を充実・発展させる基盤を弱め、大学の諸計画は見直しと先送りをせざるを得ない。本年度は第3期中期経営5か年計画（2021～25年度）を、事実上修正することとなる。

上記の険しい環境を乗り越えるため、大学は2025年度から、デジタル時代の人材育成に応えるコミュニケーションデザイン学科を経営学部の新設する。教育学部では、新たに小中学校の教員免許が同時に取得できる仕組みを整える。人間健康学部においても改組を進め、大学全体の募集力の回復・反転を図る。海外の若者を積極的に留学生として迎える海外展開も引き続き進める。

愛知東邦大学は、学力偏差値で輪切りにする評価によって苦境にあるが、大規模大学に伍して成し遂げた野球と男子サッカーの「一部リーグ昇格」、地域と密着した学生の自主活動、難関職種への就職実績などをみれば、内実は着実に向上している。

高校は、入学者数が許容量を超えない対応をとるが、発足から短時間で評価を高める国際探究コースを、2025年度から学科に格上げして世界探究学科にするなど、一層の教育力引上げに努める。

高大連携は学園の成否にもつながる。全ての教職員が危機感を持って、様々なチャンネルを通じて高大の情報交換の機会を増やし、最大時の半数以下に落ち込んでいる、内部進学者の回復にも注力したい。

Ⅱ 法人（学園）の事業計画

1. ブランディングの取組

〈責任者：ブランディング担当理事、責任組織：ブランド推進委員会、新たな100年事務局・広報室〉

【2023年度進捗状況】

- (1) **創立100周年記念事業の本格稼働**：「The TOHO EXPO」と銘打って、東邦学園のプレゼンスを国内外に高める企画「記念野球大会、TOHO Marching Band WORLD MARCHING PROJECT」、東邦学園の思想を伝える企画「東邦学園ブランドビジョン100・記念特番Nの遺伝史の放映、東邦学園記念誌の発行、記念式典・美術科30周年記念イベントの開催など」、生徒、学生の主体性を高め、誇りを涵養する企画「なんでもチャレンジコンテストの開催」等さまざま取り組んだ。東邦学園公式YouTubeチャンネルを開設して、学園HPの100周年特設サイト上で事業報告並びに映像等が閲覧できるようにした。
- (2) **創立100周年寄付の目標額達成に向けた募金活動**：今年度より実績金額の算定方法を見直している（グラウンド人工芝化等、寄付金趣意書に記載のものへの過去の寄付も算入）。また、受配者指定寄付金分も算入。今年度は7月末日時点で2億4,398万円。今年度目標額に対しては学内諸団体からの寄付金が納入済み。今秋に企業に呼びかけた寄付金が数件入金された状況。
- (3) **創立100周年記念事業の広報活動による協賛**：12月に放映した「Nの遺伝子」の協賛企業は数社にとどまった。
- (4) **「地域との連携による学生の学びの場の創出、強化指定クラブ支援の継続**：強化指定クラブ支援については、WGを立ち上げ、学生募集、部員学生の学修・キャリア形成支援、安全・安心な環境整備、ブランディング・部運営支店、ガバナンス強化の領域において、課題の洗い出しと整理を行ったうえで、継続的なWG活動、もしくは2024年度中の委員会立ち上げを検討している。「地域との連携による学びの場の創出」においては、昨年度の経験を踏まえて地域や内容を拡充し「はじめてのスポーツ体験イベント」「地域運動会再生」「親子で楽しいスポーツ体験教室」を、名東区内8学区にて23年9月～24年1月にかけて11回実施した。同時に、23年6月7日に同区におけるスポーツの活動活性化、区民のウェルビーイングを向上させるため、名東区、同区体育協会、同区スポーツ推進委員連絡協議会、同区小中学校長会と本学園との五者連携協定を締結した。この協定に基づいて、地域創造研究所にて、「名東区民のスポーツ・健康に関する意識調査」を実施し、調査期間中に800名弱の回答を受領した。また、将来的に自走・継続可能な姿を検討すべく、「名東区スポーツ・健康×まちづくり協議会」準備委員会を8月に立ち上げ、2月まで5回の会議を開催した。（スポーツ・文化振興局）
- (5) **地域貢献・国際化の可視化**：今年行われた高校4か国姉妹校交流などの国際交流活動を「news&information」などで公式Webページにて引き続き情報発信している。

- (6) **人材育成成果の可視化**：大学入学後の学生の成長を「TOHO stories」、高校生の進学実績、課内・課外の各種活動など教育単体毎の学生・生徒の成長状況を各公式 Web ページにて公開、情報を継続発信している。
- (7) **外部ネットワークの有効活用**：フレンズ・TOHO 新規会員も含めたコミュニティの中で大学・高校に対する教学活動に対する協力や支援などを引き続き呼びかけている

【2024 年度計画】

- (1) 寄付制度の整備と充実強化する。(新たな 100 年事務局・広報室)
- (2) 地域との連携による学生の学びの場の創出と「名東区スポーツ・健康×まちづくり協議会」設立準備、強化指定クラブ支援の継続、活動の可視化によるファンづくりを推進する。(スポーツ・文化振興局)
- (3) 広報活動の充実：学園ブランド力を高めるための広報を実践する。(新たな 100 年事務局・広報室)
- (4) 情報発信力の強化：学園内のステークホルダーに対する情報提供を強化する。(新たな 100 年事務局・広報室)
- (5) 企業との連携：フレンズ TOHO 等の外部組織と連携を強化する。(新たな 100 年事務局・広報室)

2. 組織行動管理と人材活用の取組

〈責任者：法人事務局長、責任組織：法人総務課〉

【2023 年度進捗状況】

- (1) メンタル&ヘルスケア拡充、リモート（在宅）勤務の継続化の検討
衛生委員会において教職員の健康保持促進については議題として取り上げられ改善が図られているが、拡充には至っていない。また、在宅勤務制度も次年度の継続課題とする。
- (2) 障害者雇用率の改善に向けて採用活動が行われ、2024 年度は雇用率が改善できる見込みである。
- (3) 定年延長制度の導入に向けて調整が進められたが、2024 年度実施は見送られた。
- (4) 職員研修制度の体系化により全員が受講し、研修報告により全研修の共有がなされた。

【2024 年度計画】

- (1) メンタル&ヘルスケアの拡充を図る。リモート（在宅）勤務の継続化を検討する。
【法人総務課】
- (2) 財務、デジタル人材等登用を推進する。【事務局執行部、法人総務課】
- (3) 高校教員・法人職員の定年年齢引上げは、24 年度計画及び 23 年度の財務実績確定を受け再度妥当な水準を検討する。同時に、法人職員の人材マネジメント体系を策定する。【人事諸制度検討プロジェクト】
- (4) 理事会・評議員会の運営が法令、規程に基づいて適正に運営するためのチェック体制を維持する。【事務局執行部】
- (5) 法令遵守を含む、体系化された職員研修を実施する。【事務局執行部および職員研修委員会】
- (6) 障害者雇用率の改善を図る。【法人総務課】

3. リスクマネジメント&ガバナンス（内部統制）強化

〈責任者：危機管理担当理事、コンプライアンス担当理事、高校労務担当理事、責任組織：法人総務課、内部監査室〉

【2023 年度進捗状況】

- (1) 災害時における地域連携体制の構築と防災対策・啓蒙活動の実施。年に 1 回の防災訓練に学生も参加して実施した。
- (2) 情報セキュリティおよび個人情報管理の問題に対する部会を設置した。
- (3) 公益通報に関する規程の整備と共に外部に通報窓口を設置した。

【2024 年度計画】

- (1) 災害時における地域連携体制の構築と防災対策・啓蒙活動を実施する。
【法人総務課】

- (2) リスクマネジメントに関わる諸規程及び対策について点検する。【法人総務課】
- (3) 不適正な会計処理が生じないようにチェック体制を維持する。【内部監査室】

4. 財務体質の改善

〈責任者：財務担当理事、子会社管理担当理事、責任組織：法人経理課、イープロ将来像検討委員会〉

【2023 年度進捗状況】

- (1) 大学の入学定員を 400 名から 348 名に見直した財政シミュレーションを作成した。
【事務局執行部】
- (2) イープロ将来像検討委員会を 3 回開催し、イープロの将来像について協議を進め、2 月の常任理事会で報告した。【イープロ将来像検討委員会】
- (3) 安定的な収入源確保のため、大学校舎の外部利用促進策についてイープロを通じた事業化の検討を開始した。【事務局執行部】

【2024 年度計画】

- (1) 経営戦略や中長期計画等を実現するための、適切な将来予測を踏まえた財務計画を改めて立案する。【事務局執行部】
- (2) 継続事業の見直し：大学における各種奨学金の費用対効果を検証する。
【法人経理課】
- (3) 継続事業の見直し：大学における各種委託費を検証する。【法人経理課】
- (4) 大学校舎の外部への賃貸事業の導入を図り、安定的な収入を確保する。
【事務局執行部】
- (5) 学園の経営状況の理解が深まるよう、財務データの情報提供を積極的に行う。
【法人経理課】

Ⅲ 中期計画 2024 年度事業計画・運営方針案（大学）

本事業計画・運営指方針案は、第三期中期目標・計画に基づき、2024 年度において実施する計画の事業ならびに実行するための大学経営指針を掲げたものである。計画の具体化には、適正な予算措置と人員配置が伴うことから、本事業計画を遂行するにあたっては、適宜、見直しを図ることを前提としている。

愛知東邦大学の 2024 年度事業計画・運営方針

第三期中期計画ビジョン（継続）

建学の精神を受け継ぎ、きらりと光る独創性を如何なく発揮し、人材育成と学術で地域社会の活力を生む**創発大学**として新たな時代を切り拓く
個性を磨き、地域・社会へと繋がる**共感力**を育む人材育成を実現する

ビジョン実現に向けた 5 つの方針（継続）

1. 教育方針：ひとり一人の英知と技能を育てる**テーラーメイド教育**
2. 研究方針：社会の変化に適応し、知と技能を価値に変える**研究拠点**
3. グローバル化方針：出会いと気づきを育む**ダイバーシティーキャンパス**
4. 社会貢献方針：地域社会、そして**愛知とともにある大学**
5. 大学経営方針：**成長する大学、開かれた大学へ**

2024 年度大学事業計画・運営方針

愛知東邦大学のテーマ Rethink

時代の変化に適合し、愛知東邦大学の強みを伸ばし、社会が求める教育・人材育成に応えるため、大学設立 25 周年を前に、あるべき姿・なりたい姿を考えなおす！
大学設立 25 周年を前に、すでに選択したことについてもう一度考えること。

Thinking again about a choice previously made.

- 教育や人材育成のメソッドを Rethink する
- 集う場所・学ぶ場所・働く場所としてキャンパスを Rethink する
- メッセージやコミュニケーションを Rethink する
- ルーティン化した業務を Rethink する
- 地域社会への貢献を Rethink する
- 全ての教職員が自分の時間の数%を Rethink に使う
- そして、中期計画を Rethink する

1. 教育プログラム

- ・経営学部：2025年4月開講の新学科の設置準備を進める。科目・教員の適切な配置プランの策定、機材やツールの導入準備、新任教員の研修、学生募集など複眼的な取り組みを行う。
- ・人間健康学部：2026年度の導入をめざし、スポーツ系健康分野および心理学系を中核とする教育システムを構築するなど中長期的な学部再編構想について検討する。
- ・教育学部：定員未達の状況からの脱却を目指すために、中高保体教員資格の教育強化とともに継続的な需要分析とカリキュラム改善案の検討を継続する。
- ・教養教育運営：各学部との連携を強化し、カリキュラムの点検と成果分析を行う。特に演習科目の在り方と、初年次における日本語教育（リーディング、ライティング、スピーキング）、論理的思考力教育の全学実施体制について、ST比・教室配分・中退防止の観点から見直す。
- ・国内外大学との教育連携によって、ユニークで魅力ある学習プログラムの開発を継続的にを行い、学生にとって選択肢のある学習機会の提供を試み、多様化、個人化に対応する。
- ・リカレント教育、外国人留学生、地方都市からの入学者の増大を視野に入れたプログラムの検討を強化する（専門職大学院、ICTを活用した通信科目の設定、学生寮とセットした学習環境の整備など）。

2. 学生支援とキャンパスライフ向上

- ・2023年度に策定した新たな中退防止対策を実験的に実施する。入学初期での退学防止施策として、一定期間の朝食提供など大学としてのホスピタリティの強化を図る。同時に保護者との情報やビジョン共有の強化を図る
- ・入学予定者に対して、入学前から本学との絆形成を図って早期接触の機会を設け、学生データの収集・分析を図ることで入学後の学修に活かすシステムを構築する。
- ・固定化された椅子デスクの廃止や古くなった視聴覚機材の交換など、教室環境の整備を行う。
- ・学生の自主的な活動を促進するため。学生サークルの立ち上げや活動支援、学生表彰や褒賞制度の見直し、学内メディアの情報発信など、学生の意見や協力を採り入れながら、楽しく学べ、学生の活動が見えるキャンパスの実現を目指す。
- ・なんでもチャレンジコンテスト、グランパスビジネスコンテストなど東邦高校との連携したイベントは継続し、高大接続の強化を図る。地域と連携した活動・授業報告会は対象やテーマを拡大し、愛知東邦版TEDのようなイベントへ成長させてゆく
- ・学生のスキマ時間の有効活用と経済支援、授業支援など複数の目的を行ってきたSA制度及びWS制度の体系を見直し、より多くの学生・教職員が協働して成果を挙げる仕組みを構築する
- ・キャリア支援として一定の実績を獲得した東邦ステップについては、学生募集、キャリア支援という観点から、成果を確認しつつ、開講科目・カリキュラム・料金体系について見直

しを図る。

- ・学生ファーストの実現のため、保健相談、学習支援、就活支援、奨学金制度、指定強化クラブ活動支援などの課題を点検し、学生の声を反映させた施策の導入を図る。
- ・学生会ならびに後援会、課外活動経費など本学周辺会計についての監査を実施し、適正な使用計画について検討する。
- ・課外活動における倫理・コンプライアンス推進のための体制整備ならびに学生・指導者向けの研修会等を実施する。
- ・未着手であった新規購入地の活用を含むキャンパス整備実施計画に関して、中長期的な財政計画（資金および返済計画）に基づいた実現可能な整備プランを再設計する。

3. 研究活動と社会貢献

- ・海外大学との連携校を増やし、海外研修や語学留学の選択肢・機会を増やす。
- ・国内外の大学との連携協定の成果として、研究者招聘や交流プログラムの開発を行う。
- ・地域創造研究所の活動の更なる活性化を図るために、学内研究助成や支援体制を見直す。同時に学部横断型の共同研究の推進を進める。
- ・引き続き本学の教員の学会活動を支援するために、各種の学会発表・シンポジウム・年次総会・地域ブロック研究会の誘致を積極的に行う。

4. 定員管理と入試政策

- ・学部学科の定員確保のための活動見直しや入試政策は毎年継続的に行う。
- ・2025年度設置の経営学部新学科のための広報活動を通じて、学生募集のマーケティング力、情報発信力の強化を図るとともに、大学全体のイメージ向上に向けたブランディングを強化する。
- ・2023年度に検討した東邦高校へのインナーブランディングを強化し、入れる大学から、選択肢に入りたい大学へポジショニングの変更を試みる。具体的には、東邦出身生の成長の報告、生徒・教員・保護者との交流機会の増加、本学の魅力の可視化などを波状的に行う。東邦高校からの内部進学については、高大連携などの教育的な絆、スポーツ推薦、受験制度などの利便性など機能的な絆、入学検定料や入学金免除などの経済的な絆などの観点から強化する。

5. 組織行動とガバナンス体制の強化

- ・気づきと出会いを育むダイバーシティキャンパス、“自分ブランディング”などライフサイクル全体の支援、学生個人の特性に沿ったテラーメイド教育に加え、卒業後もつながりたい大学になるには、ICTの利活用や施設のリニューアルの段階的な整備は欠かせない。そのためIR推進体制を強化し、情報を活用するユーザー視点にたったDX構想を再整備する。
- ・処遇待遇といった経済的な制度設計だけでなく、“やりがい”“貢献できる”“自分ごと”

などのチベーション向上につながるような、「フラットで柔軟な組織体制」「多様な働き方を選択できる人事制度」「他大学や外部企業との交流機会の創出」「現実的で効果的なFD/SD活動」など多岐にわたる活動をさらに強化する。

- ・大学組織、各学部では求める人材・教員像を明確化し、人材のダイバーシティを促進する。
- ・100周年を機に深まった東邦高校との交流機会をさらに増加し、相互理解を深め、より長期的な視点にたった高大接続の在り方を検討してゆく。
- ・防災意識を高め、南海トラフなどの自然災害に備える施策（避難訓練、ANPIC稼働確認の常態化、防災講座、地域や高校との連携）を強化する。
- ・このような方針や施策を通して、自らが進化する組織を目指し、統合的な内部質保証の向上とデータによる可視化・情報公開を図る。

IV 東邦高等学校事業計画

1. 学力向上(教務・進路・メディア情報・教科・学年)

【目標】

- (1) 「主体的・対話的で、深い学び」の推進
- (2) 「学びに向かう力」の育成
- (3) 新たな学力向上体制の推進
- (4) 英語検定合格者を増やす

【2023年度計画の進捗】

- (1) 「目指す授業像」実践を深めるため、第1回授業アンケートの結果も受け止めつつ、教科としての議論を深め、よりよい授業を目指すことができた。生徒の学習意欲を喚起するよりよい観点別評価するために試行を続けている。
総合的な探究の時間の体系化、明文化については、教学活動まとめ・方針等で現状を明文化しており、まとめの段階である。
「主体的・対話的で、深い学び」をテーマに教務部が各学期に全校の公開授業週間を設定したことは新たな試みであり、今後の拡がりを期待したい。
- (2) 新たなガイダンスとしては、例年のガイダンスに加えて、1年生で卒業生に聞く進路ガイダンス、2年生で学習面の課題克服のために「11月模試の振り返りと分析、3学期以降の勉強の取り組み方」について実施した。今後は社会人卒業生によるガイダンスも検討していきたい。生徒のモチベーションを上げる面談のため、今後に活かせるよう、8月教職員研修会でコーチングについて学んだ。好評であった。
自らの振り返りとしてのポートフォリオは1・2年生ではスタディサプリ等を用いて積極的に実施した。現2年生以降は改訂により調査書記載内容が大幅に減り、ポートフォリオが一層重要になる。
- (3) 再試日程についての変更が決定し2024年度より実施。「学園祭日程見直し」はまだ議論の収束を見ていない。今後は「深い学び」の具体化、「キャリア教育」の答申が待たれる。
- (4) 英語検定は好調に推移し、2級合格者が2学期時点昨年比で1.7倍、一昨年比で2.1倍と増加している。準2級合格者は昨年比1.3倍、一昨年比1.9倍。合格率も上昇した。3学期の2級一次合格者も過去最高数である。1・2年生の健闘が目立つ。
漢字検定は昨年度2学期比で、受検人数・合格率共にアップした。文章読解・作成能力検定は夏期補習で対策講座を行い、準2級の志願者・合格率が共に向上した。

【2024年度計画】

(1)「主体的・対話的で、深い学び」の推進(教務・進路・メディア情報・教科・学年)

①「目指す授業像」実践の進化・深化を図るため、教員個々の実践が教科の実践に、教科の実践が学校全体の実践に結実していくよう教科内、教科間での実践交流のための機会を積極的に設ける。

②観点別評価の研究と実施。

全学年に新学習指導要領が適用される今年度、観点別評価は、生徒の学習改善・教師の指導改善のために行うものであることを改めて認識し、評価法の研究と交流、教科相互の学び合いをしていく。

③「総合的な探究の時間」の体系化

全学年の「総合的な探究の時間」の探究活動の体系化・明文化をした上で、3年間を見通したより良い探究活動のプログラムを策定に向けて検討を続ける。

④「主体的・対話的で、深い学び」をテーマに、教員相互の公開授業・研究授業を一定期間実施し、授業改善・学び合いの機会とする。

(2)「学びに向かう力」の育成(教務・進路・メディア情報・教科・学年)

①進路ガイダンスの充実

生徒が志を抱いて自分の進路に向き合えるよう、「進路ガイダンス委員会」を中心に大学生から社会人まで体系的で持続可能なガイダンスが設定を目指すための名簿作成をする。また引き続き新たなガイダンスを開拓し、キャリア教育の充実を図る。

②生徒が自らの進路や生き方を主体的に考えるための学習・進路面の面談を質・量ともに活性化する。現状把握の方策として面談に関する教員アンケートを行い、それをもとに現状の面談の課題や、実施方法等について、教員・生徒双方によりよい方向性を検討する。

③調査書様式の変更や、大学入試の方向性からも生徒自身が学習・学校行事・課外活動などで自ら計画や課題を設定して行動し、振り返る活動としてのポートフォリオ作成の重要性が増している。しっかりと活用していく。

(3) 新たな学力向上体制の推進

「新学力向上プロジェクト」の答申をもとに引き続き検討を続け、生徒の学力・進路意識の向上を期す。今年度は特に再試日程の変更がスムーズに実施されるよう万全を期す。未答申・未提案分野については答申を待ち、提案していく。

(4) 検定合格者を増やす

①卒業までに全員が英語検定準2級取得を目指せるよう、現在の受験体制の継続、通常授業の内容とリンクした英語検定対策の実施、英語4技能の重要性について生徒の理解を促進し実用英語へのモチベーション向上、等に留意して合格者数増加に努める。

②各種検定試験に積極的に取り組む。

2. キャリア教育の充実と進路希望実現（進路・教務・教科・学年）

【目標】

- (1) 愛知東邦大学・愛知大学との連携事業のより一層の充実を図る
- (2) 新たな大学との高大連携事業を模索する。
- (3) 学内外インターンシップ・キャリアガイダンスの充実で未来への志を育む
- (4) 第一志望校合格の実現

【2023年度計画の進捗】

- (1) 愛知東邦大学9月保護者向け大学見学会参加者65組、87名。愛知東邦大学の教育内容が、わかりやすく教職員や保護者・生徒に伝わるよう、校内に、愛知東邦大学に関する掲示板の設置、また教職員ポータルサイトにバナーを設置し愛知東邦大学の情報へのアクセスを一層良好にした。3学期に1・2年生対象で実施した「高大連携授業」は生徒・教員共に大変好評で、95%の生徒が「満足」と回答し、1年生約75%、2年生約63%の生徒が「大学で学ぶ期待が高まった」と回答している。愛知大学の模擬講義参加者は多く、2会場に分かれて実施することもあった。
- (2) 進学コース2年生の希望者37名が名城大学ゼミに参加した。国際探究コースの生徒が愛知学院大学ゼミにお世話になった。大学での学びに触れることで進路意識の向上、学問のはじめの一步につながるよい経験となった。探究発表会には名古屋外国語大学、愛知学院大学の先生や学生さんが来てくださった。
- (3) コロナ禍が明けて生徒の多様な体験が可能になったことから、コロナ禍のようにインターンシップに生徒の希望が殺到することは、今後はないと予想される。次年度は希望者全員が参加できるようにしていきたい。
全員参加型のインターンシップについての調査・研究は継続している。
- (4) 完成したカレンダーは、特に3年生で多く利用された。
進路指導室からは情報提供、個々の生徒に最適な受験指導についての打ち合わせなどを精力的に実施した。

【2024年度計画】

～「強い心で挑戦する」進路開拓を～

- (1) 愛知東邦大学・愛知大学との連携事業の一層の充実を図り、新たな教育連携を模索する。（進路・教務・学年）
- (2) 他大学との連携事業の発展を図る、新規の連携事業を行う。（進路）
- (3) 内外インターンシップ・キャリアガイダンスの充実で未来への志を育む（進路）
 - ①学外インターンシップ参加最大40名を目標とし、1・2年生に積極的な参加を働きかける。
 - ②より多くの生徒が参加できる新形態のインターンシップを研究し、実現に向けて検討する。

(4) 第一志望校合格の実現（進路・教務・教科・学年）

- ①各学年の進路カレンダーを生徒の指導に積極的に活用する。
- ②情報提供、教員研鑽機会を増やし、教員間の意思疎通を密にし、生徒の進路目標を叶えるためのより適切な受験指導ができるよう、関係各署で検討し連携する。

3. 持続可能な社会を担う人材の育成(校務・生活指導・国際交流・生徒会・学年)

【目標】

- (1) SDGs を意識した国際理解・平和・環境・防災・地域連携教育の推進
- (2) 2023 年度「UNESCO DAY」学校行事化に向けての準備
- (3) 夏期英語研修の拡充を検討する
- (4) 国際交流提携校の新規開拓
- (5) 外部機関、地域（名古屋市・名東区・平和が丘など）との関係の強化

【2023 年度計画の進捗】

- (1) 「名古屋へいわの日」次年度制定（5 月 14 日）がほぼ決定した。10 年来歴代の生徒会役員が引き継いできた制定への働きかけが実を結んだ。4 か国 5 校姉妹校交流会も 100 周年を記念して本校で行われ、それぞれの歴史を振り返る中で互いの関係をより深めることになった。文化祭でも平和企画が行われた。平和が丘学区の総合防災訓練が本校を会場に、200 名余の参加で行われた。
- (2) 今年度「UNESCO DAY」を設定することはできなかったが、設定に向けて小さな取り組みを積み重ねている。3 学期は、6 人の留学生による Global Cooking Day を 1 月中に実施できるように準備を進めている。
- (3) 2 か国での夏期英語研修は所期の目的を達し、充実したものだった。燃料費や世界的な物価高騰により渡航費用が過去最高になったことは、今後の参加者数に影響する憂慮すべき点ではあるが、次年度も NZ とフィリピンの 2 か国で実施する方向で準備する。
- (4) ドイツザルツマンシューレが来校、文化祭期間中に 1 週間ほどホームステイし交流した。今年度が最後の交流となった。今後も「姉妹校・提携校」という枠にとらわれず、これまで来校した学校や新規の学校と交流を継続、深化させていく。モンゴルの British School of Ulaanbaatar が 2 週間滞在し交流した。3 学期はインドネシアの学校が来校し交流した。
- (5) 新たな取り組みとしては、名東区役所区政地域力推進室からの協力依頼により美術科生徒が名東区生 50 周年記念のロゴマークを制作した。来年度使用予定。また 11 月、名古屋市地域振興課の依頼を受けてマーチングバンド部が「名古屋市区政協力委員大会」にて演奏。いずれも地域との関係の強化を感じることのできる取り組みであった。例年の取り組みとしては放送部が名東区の「青少年のつどい」にて司会をし、安定した評価をいただいている。また、コロナ禍が明けて生徒会役員が地元平和が丘の祭りにも参加することができた。

【2024 年度計画】

「他者と共に歩む」～SDGs を意識した ESD 教育の推進～

(1) SDGs を意識した国際理解・平和・環境・防災・地域連携教育の推進

(校務・生活指導・国際交流・生徒会・学年)

①分掌・教科・学年それぞれの立場で SDGs、ESD 教育を意識し、環境教育・平和教育の深化、地域防災との連携、ジェンダー・ギャップの是正等々各種課題に取り組む。生徒各種委員会活動などでも、持続可能な開発に向けた取り組みを進める。

(2) 「UNESCO DAY・UNESCO WEEK」の学校行事化実現に向けて一層の動きを作る。

(国際交流・生徒会)

(3) N.Z・フィリピン夏期英語研修について、それぞれの充実を図る。(国際)

(4) 国際交流提携校の新規開拓に向けて新たな交流を進める。

(5) 外部機関、地域(名古屋市・名東区・平和が丘など)との関係の強化

(校務・生活指導・国際交流・生徒会・学年)

名古屋市・名東区・平和が丘学区との共同行事に年間 10 回の参加を目標とする。

4. 学校生活の充実(生徒会、生活指導、校務、保健指導、メディア情報センター、学年)

【目標】

(1) 生徒が主体的に企画運営し参加する自主活動の場を増やす。

(2) 部活動では、運動部のみならず文化部のより一層の活性化を図る。

(3) 相談体制の充実

(4) 行事における ICT 利用の推進

【2023 年度計画の進捗】

(1) 制服についての生徒のアンケートの結果、生徒会の要求について生活指導部教員と話し合いをする段階になった。また、23 年度は学校行事以外にも生徒主体の慰霊行事が行われた。各学年で級長会、委員会が活発に行われレクリエーション活動や生徒からの呼びかけなど、生徒主体の自主的な活動が活発に行われた。

(2) 吹奏楽部が全国管楽学校コンテストで最優秀賞を受賞した。情報処理部がパソコン甲子園(全国大会)出場。運動部は 4 つの部活動で全国大会出場、このほか東海大会に 3 つの部活動が出場した。部活動以外でのスポーツの活躍(車いすテニス、ライフル射撃)も目立った。

(3) 1 学期 10 件であった SSW の相談件数は 2 学期 30 件に増。生徒の行動の背景について社会福祉の視点で考察し、支援することができた。カウンセリングはのべ総回数 141 回(昨年度 211 回)、対象人数 65 人(昨年度 90 人)。ケース会議は 2 件実施し、課題解決や状況改善に向けて支援することができた。

(4) オンライン行事、対面行事、それぞれのイベントの特性がどちらに適しているのか精査しながらハイブリッドで行事を行うことができた。なお、オンラインアンケー

トが増え、集計作業は便利になったが、完全回収が難しいのが課題。打開策を見いだす検討が必要であろう。

【2024 年度計画】

～「自分で考え自ら行動する」自律した集団の中で

生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るために～

- (1) 学校生活の様々な場面で、
 - ①H.R・委員会活動など、生徒による討議・議論の場を増やす。
(生徒会・生活指導・学年)
 - ②生徒が主体的に企画運営する行事や活動の場を増やす。
 - ③部活動では、運動部と共に、文化部のより一層の活性化を図る。(生徒会)
- (2) 相談体制の一層の充実を図るため、スクール・ソーシャルワーカーの出勤を増やすことで生徒・保護者へのより多面的な支援を図り、漸増する転退学者に歯止めをかけたい。(保健指導・学年・生活指導)
- (3) 行事における ICT 利用の推進(校務、メディア情報センター、生徒会、学年)
行事の効率化と内容の充実を両立しながら、効果が認められるものや期待されるものについては、オンラインを継続・新規導入する。

5. 科・コースの充実と普通科教育の見直し(教務・進路・学年・科・コース)

【目標】

- (1)「目指す生徒像」のもと、科・コースの充実を図る
- (2) 2024 年度世界探究学科開設を目指す

【2023 年度計画の進捗】

- (1) 学校行事がコロナ禍以前の形にほぼ戻り、行事での充実感が増した。学校生活アンケートでは「学校生活の充実度」がコロナ前の水準を超え、学校全体で 93%の生徒が「学校生活が充実している」に肯定的な回答であった。
- (2) 名称を「世界探究科」にすることが決まった。今年度は学校全体のクラス数との関係もあり、スタートを 1 年遅らせることになった。2025 年度スタートに向けて今後最終準備をしていく。

【2024 年度計画】

- (1)「目指す生徒像」のもと、科・コースの充実を図る。
(教務・進路・学年・科・コース)
各科・コース生徒の学校生活アンケート「学校生活の充実度」の項目において過去最高の水準である肯定的回答 95%を目指し、学習活動・行事・課外活動など、学校生活でのバランスを意識してそれぞれの充実を図る。

- (2) 2025年度国際探究コースの世界探究学科新設申請に向けてカリキュラム等の最終準備をし、滞りなく申請を行う。

6. 学校運営の安定化と適正化(広報・教頭・理事・事務)

【目標】

- (1) 安定的な生徒募集
- (2) 100周年後の東邦教育の礎を築くブランディング推進と広報の充実
- (3) 通信制課程設置の検討を開始するための調査研究を行う。

【2023年度計画の進捗】

- (1) 推薦・一般併せて3100名の中学生が受験、私学人気の高さ、東邦高校への期待を実感する結果となった。学校説明会では、これまで参加者が揃うまでに30分程度お待たせすることがあるのが常であったが、今年度からは保護者・生徒の皆さんをお待たせしないよう普通教室を会場にし、校長の学校説明と募集要項の説明を動画視聴で行う初めての形式で実施した。直接顔を見て話を聞きたかったというご意見いただいたが、概して好評であった。
- (2) 教職員の協力、多くのステークホルダーの皆さまのご参加を得て100周年記念式典を滞りなく執り行うことができた。「未来レター」はH.Pで公開する。「なんでもチャレンジコンテスト」は高校としては最終14件を審査し発表・表彰した。TOHOマーチングバンドがアジアオセアニア代表としてローズ・パレードに出場、上位3チームに選ばれ演奏会ともども万雷の拍手喝采を浴び、「東邦」の名をグローバルに広め、学園の認知度を上げることができた。
- (3) 発足に向けての調査・研究は進んでおり、今後は発足に向けての課題をどのように解決するかを検討していく段階である。

【2024年度計画】

～真に「選ばれる学校」に～

- (1) 安定的な生徒募集(広報)
 - ① 入学人数の安定化と校舎利用の適正化を図るため、入試について一定の変更を行う。
 - ② 本校の教育活動について広く理解してもらうための広報活動を展開する。(広報)
- (2) 100周年後の東邦教育の礎を築くブランディング推進と広報の充実
(広報・理事・教頭)
- (3) 通信制課程設置検討のための調査研究を進め、当面の実現可能性を精査すると同時に、通信制課程のみならず、今後の持続可能な学校運営体制のためにできることは何か、模索を開始する。(理事・教頭・事務)

7. 学内環境の整備 (理事・教頭・メディア情報・教務・事務)

【目標】

- (1) 生徒学習環境の整備
- (2) 教職員研修の充実と教育力の向上 ～教職員の「学び」を促進する～
- (3) 業務の合理化と働き方改革の推進
- (4) 教職員職場環境の整備

【2023 年度計画の進捗】

- (1) 2 学年のアンケート調査では、1 学期に比べて 2 学期はスタディサプリの利用が促進されている（課題として取り組む 48%、テスト前学習利用 33%、授業でわからなかった内容を見る 14%、など）。個別最適学習ツールとして利用を一層促進するため、様々な指導の経験交流ができるとよい。
- (2) 教員研修については、Fトレ計 3 回の課題を実施し、対面の研修会、高大合同研修会も行った。12 月、新人 1・2 年目の教員の校長・理事面談をした。一般教員の面談については今後時期や方法などを検討していくことが必要である。「コーチング」研修会は、グループワーク、ロールプレイングもあり大好評であった。T.I 研修は 2 名参加しており、校内での実践報告などに向けて研修者を支えていく。
- (3) 引き続きガイドラインの遵守、計画表の早期完全提出をすることで、生徒だけではなく、教員の休養もとれるように促していきたい。多くの部活動においてはガイドラインに則り、大会がたて込む時期以外、休養日の増加を努める傾向にある。ロイノートや C-Learning を用いた配信は教員の省力化につながる面もある一方、配信物の確認や管理を集中することが難しく受信者側が情報過多になる傾向があること、アンケートなどの回収が徹底できないなどの課題がある。また時間を選ばない通信手段ゆえに、ともすると夜間の教科質問に回答するなどの教員の負担が派生しがちで、学校全体のルールを策定する必要がある。
- (4) 自動販売機横スペースの有効活用を検討、2S（整理・整頓）の呼びかけ、ノー残業デーの実施などを行った。

【2024 年度計画】

～生徒の成長・教職員・目指す生徒像教育を支える環境整備～

- (1) 生徒学習環境の整備 (教務・メディア情報センター)
 - ① 部活動に参加する生徒、家庭学習をしたいが方法がわからないような生徒に対してスタディサプリアなどの有効活用、放課後の学習体制整備について研究を進める。
- (2) 教員研修の充実 ～教員の成長を支援する～ (理事・教頭)
 - ① 免許状更新講習発展的解消後の、本校独自の教員研修を実施し、教員が教職に必要な資質を高め、常に新たな知見に触れ、個々の興味・関心や成長願望、経験年数や職責

に応じた「自分の仕事に役立つ研修」で研鑽を積めるシステムを継続し、将来的に校長を中心とした管理職が面談等で教員の成長を支援できるような体制づくりを検討、準備する。

- ② TI 研修をはじめとした外部研修に積極的に取り組む。
 - ③ 授業アンケート結果を教科で有効に活用し、個人・教科全体で授業について振り返り、授業改善に取り組む契機とする。
- (3) 業務の合理化と働き方改革の推進 **(理事・教頭)**
- ① 部活動ガイドラインの遵守を推進する。
 - ② 業務合理化を進める。
- (4) 教職員職場環境の整備 **(理事・事務)**
- ① 福利厚生の実を充実を進める

以 上